



褥瘡のある利用者様の 創部経過と対応方法

DESIGN-R評価とスタッフ対応の統一

介護老人保健施設アメイズ
発表者：野原 笑子

はじめに

褥瘡は長時間の圧迫や摩擦、栄養状態の低下した状況で起こる皮膚、組織の壊死であり、寝たきりや長時間の車椅子乗車などにより生じることがあります。

当施設では、褥瘡が発生してしまった利用者様に対しDESIGN-Rという褥瘡評価ツールを用いて評価を行い、統一したケアを行っています。

事例紹介

A氏 88歳男性 認知症・廃用症候群

H28年12月20日入所

下肢拘縮ありADL全介助、オムツ使用

リクライニング車いす使用

食事は毎回ほぼ全量摂取

H28.12/7採血データ 総蛋白6.7 g/dl

アルブミン3.6 g/dl、血色素量394万

褥瘡発生日H29年2月21日 左臀部に膿胞形成し病院にて切開

囊胞形成



形成受診切開後

H29.2/21



体位交換の方法



ステリ・PRO



○次亜塩素酸ソーダの約6~8倍の除菌力

対象	方法	希釈倍率
室内空間の除菌消臭	スプレー	4倍~6倍
	超音波加湿器	4倍~10倍
テーブル・ドアノブの除菌	スプレー・拭取り	4倍
包丁・まな板	スプレー・水洗い	2倍~3倍
トイレの消臭	スプレー	4倍
ポータブルトイレの消臭	浸け置き	4倍
便器・便座の除菌	スプレー	原液~



H29.2/28処置2回/日
DESIGN-R40点

ステリプロ洗淨



H29.3/28処置1回/日
DESIGN-R31点

4月

DESIGN-R 30点

7月

DESIGN-R 30点

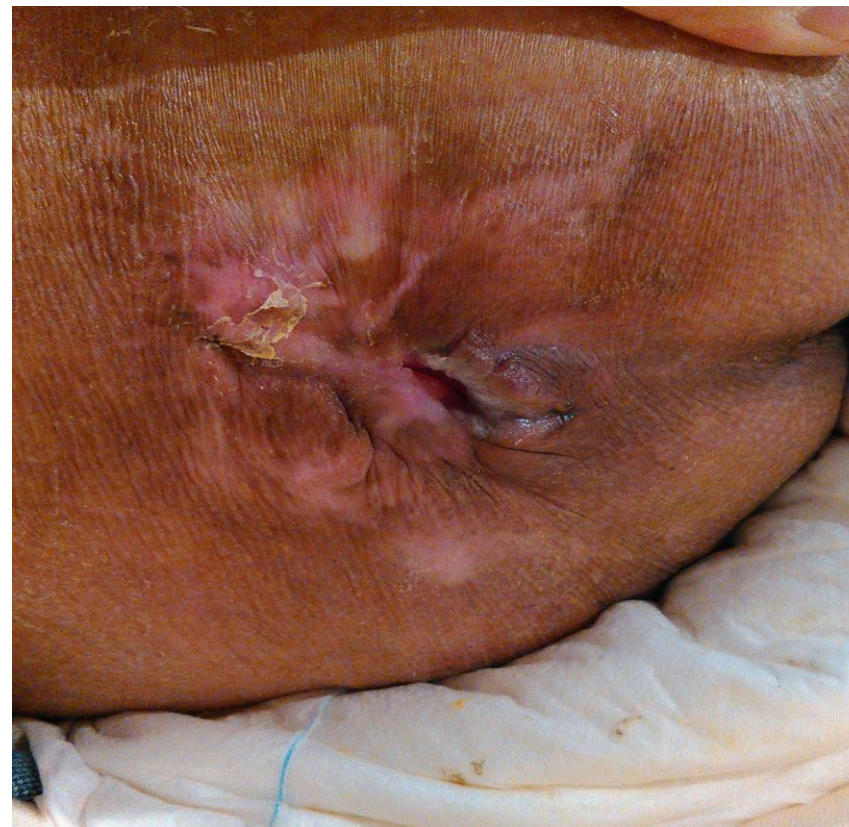


8月

DESIGN-R 28点

12月

DESIGN-R 11点



考察・結論

- ▶ 除圧マットの使用や、定期的な体位交換を行っていても利用者様の全身状態や、栄養状態などにより褥瘡の発生リスクが高くなるという事を改めて感じた。
- ▶ ステリプロを用いて洗浄する事により、殺菌効果から創部の炎症の軽減そして悪臭の軽減にもつながったと考えられる。
- ▶ 早期に除圧できる体位の取り方や、枕の当て方などの予防策が必要であったと考えられる。

考察・結論

- ▶ 体位交換の方法を写真に撮り貼りだすことによりスタッフ間での統一が図れ、それを実践して行く事で創部の除圧につながった。
- ▶ 褥瘡を予防していく事はもちろん大切であるが、出来てしまった時の対応について、職員同士の対応策の統一が必要である。
- ▶ 日々の観察・処置の検討を行い、創部の状態を把握し、創部の除圧の必要性や栄養状態の把握など、ケアスタッフ全体で行う事が必要である。



ご清聴
ありがとうございます
ございました♪